

被爆体験
証言・伝承講話被爆体験記
朗読会

ヒロシマ被爆

ナガサキ被爆

講師を全国に無料で派遣します！

～被爆体験伝承者等派遣事業～

【講師区分】

令和7年度派遣

◆被爆者

ヒロシマ被爆

ナガサキ被爆

被爆者ご本人が自身の被爆体験を証言します。

※修学旅行の事前学習、同一年度内に広島・長崎市内で聴講する団体は対象外とし、聴講者数は概ね40名以上とします。
 ※広島からの被爆者の派遣は、12月から翌年3月までの間に限ります。
 ※長崎からの被爆者の派遣は、職員1名（費用は申込者負担）が随行します。

◆被爆体験伝承者・家族伝承者(広島市が養成)

ヒロシマ被爆

◆家族証言者・交流証言者(長崎市が養成)

ナガサキ被爆

◆原爆体験伝承者(東京都国立市が養成)

ヒロシマ被爆

ナガサキ被爆

被爆者から被爆体験を直接受け継いだ伝承者等が、プレゼンテーションソフトなどを用いて、被爆の体験や平和への思いをお話しします。

◆被爆体験記朗読ボランティア

朗読ボランティアが被爆体験記や原爆詩の朗読を通じて被爆者の思いを伝えます。

ヒロシマ被爆

参加型

朗読者は広島祈念館に登録しているボランティアで、フリーアナウンサーや劇団員またはその経験者などです。原爆詩を朗読する体験を通じて、被爆者の思いに触れてください。

ナガサキ被爆

長崎祈念館で育成した朗読ボランティアが、派遣先（地域・年齢等）の要望に合わせたプログラムを都度構成し、心を込めて朗読します。希望により朗読体験も行います。

◆申込期限は、派遣希望月の3か月前の末日まで

(ただし、派遣希望月が4月の場合は2月未まで) (例) 7/31 派遣希望の場合 ⇒ 4/30申込〆切

★申込方法・開催時間等詳細については、下記ホームページをご覧ください★

申込＆問い合わせ先

ヒロシマ被爆

●国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

<https://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/>
 haken@hiro-tsuitokenkan.go.jp
 TEL 082-207-1202



ナガサキ被爆

●国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

<https://www.peace-nagasaki.go.jp/>
 haken@peace-nagasaki.go.jp
 TEL 095-814-0055



申込から開催までの流れ

～被爆体験伝承者等派遣事業～

- ① **申込の受付** 令和7年2月1日～
申込期限：希望月の3か月前の末日まで
(例：8/10 派遣希望の場合 ⇒ 5/31申込〆切)
- ② **派遣の可否の連絡**
申込書受付後、概ね1か月以内に連絡します。
- ③ **派遣者名等の派遣内容の連絡**
開催日の1か月から2週間前までに連絡します。
- ④ **派遣者と電話等で打ち合わせ**
派遣者と開催内容等について確認を行ってください。
- ⑤ **会場への派遣、開催**
会場設営、必要機器等の準備を行ってください。

※申込に際しての注意事項

- 派遣対象 学校、自治体、その他の団体が主催し、平和に関して学ぶ目的で行う平和学習等とします。ただし、政治・宗教・営利を目的とする集会等は除きます。
- 聴講者数 概ね20名以上（被爆者ご本人の講話は40名以上）が聴講する平和学習等に派遣します。ただし、これを下回る場合においても状況に応じて派遣します。
- 実施回数 申し込みは1団体1回のみ（1年度内）、講話もしくは朗読会のいずれかのみとします。なお、広島、長崎両方への申し込みはできません。

※必要機器等（プレゼンテーションソフトを使用できるパソコン、スクリーン、机、マイク及びマイクスタンド等）は申込者に準備していただきます。また、会場借上料などの必要経費は申込者の負担となります。

令和6年度に寄せられた感想から

◆被爆者による講話

○大阪府岸和田市立大宮小学校（令和6年12月2日 広島から派遣）

どんな体験をしたのか、家族とどんなふうにご一緒していたのかを詳しく教えていただいたので、想像しやすかったです。戦争がどれだけ心に傷を植え付けるか、戦争を知らない子どもたちにも伝わったと思います。

◆伝承者等による講話

○被爆体験伝承講話(広島)【淡路市立多賀小学校】令和6年9月6日

イラストを効果的に使ってプレゼンテーションをしていただき、6年生児童にとっても理解しやすい内容でした。広島・長崎への原爆投下までの歴史的背景も踏まえ、原爆の悲惨さがより深く理解できたと思います。

○家族証言講話(長崎)【沖縄県伊平屋村立伊平屋中学校】令和6年9月10日

教科書では学ぶことの出来ない、原爆の恐ろしさや体験者の生の声を伝えていただきました。原爆被害の実際の写真等を見せてもらい生徒達も戦争の悲劇・恐ろしさを体感できたと思います。

○交流証言講話(長崎)【東京都武蔵野市吉祥女子中学校】令和6年10月16日

原爆投下の歴史的背景や原爆自体の知識は授業でも扱っていましたが、日常生活の中で突如被爆した方の話はなかなか伺う機会がありません。当時の状況や思い、悲惨な現実をまざまざと突き付けられた気がしました。そして、戦争体験は高齢を理由に風化させていけないものだと感じました。

○原爆体験伝承者(国立)【栃木県立宇都宮工業高等学校】令和6年11月25日

わかりやすく、生徒の心をひきつける内容でした。提示されたスライドや話し方も工夫されていて、悲惨さや衝撃もよく伝わりました。爆心地からの距離を本校の地図に重ねて説明して下さったことが強く印象に残りました。

◆被爆体験記の朗読会

○大分市立豊府小学校（令和6年5月10日 長崎から派遣）

知識や事実と感情面の両方から二度と原爆の被害は出してはいけないと心に訴えかける内容でした。子どもたちからも「実際に話を聞いてみると調べるだけより深まった。」等の感想が聞かれました。柔らかさ静けさを備えた語りは、子どもたちの心にとても響きました。

